

# 令和8年用ハウスさくらんぼ病害虫防除基準

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- この基準は、令和7年10月1日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用回数	散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
被覆前 ①	カイガラムシ類幼虫	1. アプロードフロアブル 1,500倍 (66mℓ)	7日前まで	2回以内	400ℓ	1. 発芽前、ハーベストオイル50倍に石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)を加用するときは、水にハーベストオイルを加え、十分攪拌後に石灰硫黄合剤を加え攪拌し速やかに散布する。 2. ハーベストオイル50倍に替えてスプレー油50倍(発芽前、-)を使用してもよい。 3. 敷布時は凍結しないよう注意する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類 (ハダニ類)	2. ハーベストオイル 50倍 (2ℓ)	発芽前	-			
開花直前 (風船状) ②	灰星病 炭そ病	1. トレノックスフロアブル 500倍 (200mℓ)	21日前まで	5回以内	400ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	ハマキムシ類	2. フェニックスフロアブル 4,000倍 (25mℓ)	前日まで	2回以内			
満開3日後 ③		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			500ℓ	1. オーシャインフロアブルに替えてサンリット水和剤2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。 2. ハマキムシが多い園ではバイオマックスDF 2,000倍(発生初期但し、前日まで、-)を追加散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰星病	2. オーシャインフロアブル 3,000倍 (33mℓ)	前日まで	5回以内			
	褐色せん孔病 炭そ病	3. オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	3日前まで	5回以内			
満開15日後 ④		1. 展着剤(ハイテンパワー) 10,000倍 (10mℓ)			500ℓ	1. ハウス内の湿度を上げないように換気等に留意する。 2. コスカシバの発生が多い園では、スカシバコンLを100本/10a設置する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
	灰星病	2. パスワード顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	前日まで	2回以内			
	褐色せん孔病 炭そ病	3. オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	3日前まで	5回以内			
前回(④)散布 10~15日後 ⑤	灰星病 褐色せん孔病	1. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	3回以内	500ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
	カイガラムシ類	2. モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 (50g)	前日まで	1回			
	ハダニ類	3. ダニコングフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	1回			
【特別】 カイガラムシ対策	カイガラムシ類	1. トランスフォームフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	3日前まで	3回以内	500ℓ	1. カイガラムシ類の発生時期は栽培条件により異なるため、トラップ等により発生を確認して防除する。 2. 毎年ハダニ類の発生が多く見られる園では、スパイカルプラス1~5パック/樹を設置する。設置以降は影響のある合成ピレスロイド剤、有機リン剤、殺ダニ剤の使用は控える。 3. トランスフォームフロアブルに替えてモベントフロアブル2,000倍(7日前まで、3回以内)を使用してもよい。ただし、モベントフロアブルを使用した場合、同系統のダニゲッターフロアブルは使用しない。	散布日 月 日 散布量 ℓ

## 耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。
灰星病	1. 被害花(果)や被害葉、被害枝は、見つけしだい摘除し、土中深く埋める。 2. 枯死枝やミイラ果は、見つけしだい摘除し、適切に処分する。
褐色せん孔病	1. 早期落葉(8月~9月)した被害葉はできるだけ集め、適切に処分する。
カイガラムシ類	1. 休眠期に高圧水による洗い流しやブラシがけを行う。 2. 農薬散布にあたっては散布ムラがないよう丁寧に散布する。

ハダニ類の防除について
1. リンゴハダニは主に樹上で卵越冬し、被覆後に気温の上昇と共に孵化し増殖するので、マシン油乳剤等により密度を下げておくことが重要である。
2. ナミハダニは主に園内の下草や落葉下に雌成虫(越冬態)で越冬し、気温の上昇と共に増殖しながら樹上に移動する。
3. 従って下草の管理に留意すると共に、マルチ等の使用により、初期のハダニの増加を抑えることが可能となるため、殺ダニ剤の使用回数を抑えられる。

## おうとう樹脂細菌病予防対策

- 晚秋期(11月以降)のICボルドー66D40倍(発病前~発病初期、-)、休眠期の石灰硫黄合剤10倍(発芽前、-)の散布を欠かさない。
- 樹脂の漏出が見られたら、褐変部位を木質部まで達するように、健全部を含め削り取り、トップジンMペースト(病患部削り取り直後、3回以内)または、バッチャレート(病患部削り取り直後、3回以内)を塗布する。
- 適正樹勢の維持に努め、防風ネットを設置する。
- 未結果樹は発芽後から落葉後まで、ICボルドー66Dを主体に、幹にも丁寧に散布する。また、4月中旬~5月上旬にマイコシールド1,500倍(7日前まで、2回以内)を散布してもよい。なお、耐性菌出現防止のため、連用は避ける。

## 加温さくらんぼ施肥基準(成木: 10a 当り)

作型・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
加温さくらんぼ (450kg)	燐硝安加里S248 (わかみどり)	10~20kg	6月上旬 (収穫後)	2.0~4.0	0.4~0.8	0.8~1.6
	フレッシュフルーツ有機70	60~80kg	7月~8月	6.0~8.0	3.0~4.0	1.2~1.6
	合計			8.0~12.0	3.4~4.8	2.0~3.2

## 植物成長調整剤

用途	薬剤名	処理時期	処理濃度・処理量	処理方法	注意事項
休眠打破による発芽促進	CX-10 (シアナミド)	休眠期	10~30倍 10a当たり300~400ℓ	立木 全面散布	使用回数 1回

発行：JAさがえ西村山・さがえ西村山さくらんぼ部会

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前使用日数	総使用回数	散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
⑥ 佐藤錦着色始期	灰色星病 褐色せん孔病 炭そ病	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内		1. 殺ダニ剤はハダニの発生状況に応じて散布する。 2. ショウジョウバエがみられる場合は、殺虫剤を加用する。 3. ナリアWDGに替えてパレード15フロアブル2,000倍(前日まで、2回以内)を使用してもよい。 <b>●収穫前日まで使用できる殺虫剤(ショウジョウバエ対策)</b>	散布日 月 日 散布量 ℓ
【特別】 収穫状況に応じて	灰黒星斑病 病	1. ベランティーフロアブル 8,000倍 (12mℓ)  2. テルスター <sup>劇</sup> フロアブル 3,000倍 (25mℓ)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	400 ℓ	系 統 ネオニコチノイド系 ジアミド系	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑦ 収穫直後	褐色せん孔病 炭そ病 ハダニ類	1. アミスター10フロアブル 1,000倍 (100mℓ)  2. ダニオーテフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで 前日まで	3回以内 1回	500 ℓ	1. 収穫終了後、直ちに散布する。(飛散注意) 2. 降雨前に散布する(被覆除去前も可)。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑧ 前回散布 14日後	褐色せん孔病 炭そ病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)  2. トレノックスフロアブル 500倍 (200mℓ)	21日前まで	5回以内	500 ℓ	1. 露地雨除けさくらんぼに隣接する園では、トレノックスフロアブルに替えてオシリーワンフロアブル2,000倍(前日まで、3回以内)を散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
【特別】 前回散布 14日後	褐色せん孔病 炭そ病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)  2. オーソサイド水和剤80 800倍 (125g)	3日前まで	5回以内	500 ℓ	1. 褐色せん孔病の発生している園地では防除を実施する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
ウメシロカイガラムシ対策		発生の多い園では、コルト顆粒水和剤2,000倍(前日まで、3回以内)をトラップ等により発生を確認して、枝幹に十分かかるよう散布する					
⑨ 露地雨除け作型収穫直後	褐色せん孔病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)  2. オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで	3回以内	500 ℓ	1. 褐色せん孔病の発生している園では、オキシラン水和剤に替えて、ICボルドー66D40倍(発病前～発病初期、-)又は、ドキリンフロアブル800倍(収穫終了後～落葉期まで、3回以内)を散布してもよい。 2. オキシラン水和剤に替えてドキリンフロアブル800倍(収穫終了後～落葉期まで、3回以内)を散布してもよい。 3. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを単用で散布する。 4. ダニゲッターフロアブルは新梢伸長期には新葉に薬害を生じる恐れがあるので注意する。また、開花期の水稻に本剤がかかった場合、穂に薬害を生じる場合があるので、からないよう注意する。さらに、モベントフロアブルと同一系統のため使用はいずれか年1回とする。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑩ 前回散布 14日後	褐色せん孔病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)  2. オキシラン水和剤 600倍 (166g)	収穫終了後～落葉期まで	3回以内	500 ℓ	薬剤名 ダニゲッターフロアブル コロマイト乳剤 オマイト水和剤 コテツフロアブル <sup>劇</sup> アカリタッチ乳剤 マイトコーネフロアブル	使用時期 7月 8月 前日まで 1回 ○ 7日前まで 1回 ○ 収穫後～落葉期 2回以内 ○ 7日前まで 2回以内 ○ 2,000倍～3,000倍 前日まで - ○ ○ ※アカリタッチ乳剤は、収穫前に使用すると果実に薬害を生じるので、 <b>収穫後使用</b> を厳守する。また、殺卵効果がなく、残効性も期待できないので、5～7日間隔の連続2回散布や、他剤とのローテーションで使用する。 1,000倍 14日前まで 1回 ○
⑪ 7月下旬～8月上旬	褐色せん孔病 ウメシロカイガラムシ	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)  2. ドキリンフロアブル 800倍 (125mℓ)  3. バリアード顆粒水和剤 <sup>劇</sup> 4,000倍 (25mℓ)	収穫終了後～落葉期まで	3回以内	500 ℓ	1. ドキリンフロアブルに替えて、ICボルドー66D40倍(発病前～発病初期、-)またはクレフノン100倍加用のコサイド3000、2,000倍(収穫後、-)を散布してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
⑫ 8月中旬～下旬	褐色せん孔病	1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)  2. ICボルドー66D 40倍 (2.5kg)	発病前～発病初期	1回	500 ℓ		散布日 月 日 散布量 ℓ
落葉後	コスカシバ	1. ガットキラー乳剤 100倍 (1ℓ)	落葉後～萌芽前	1回	250 ℓ	1. 落葉後なるべく早い時期に枝幹に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
野ぞ対策(食害忌避)		根雪直前に、フジワニ粒剤(根雪前、2回以内)を200g/樹、幹周り半径約50cm範囲の落葉や雑草を取り除き均一に散粒し、レーク等で表土と混和する。					